

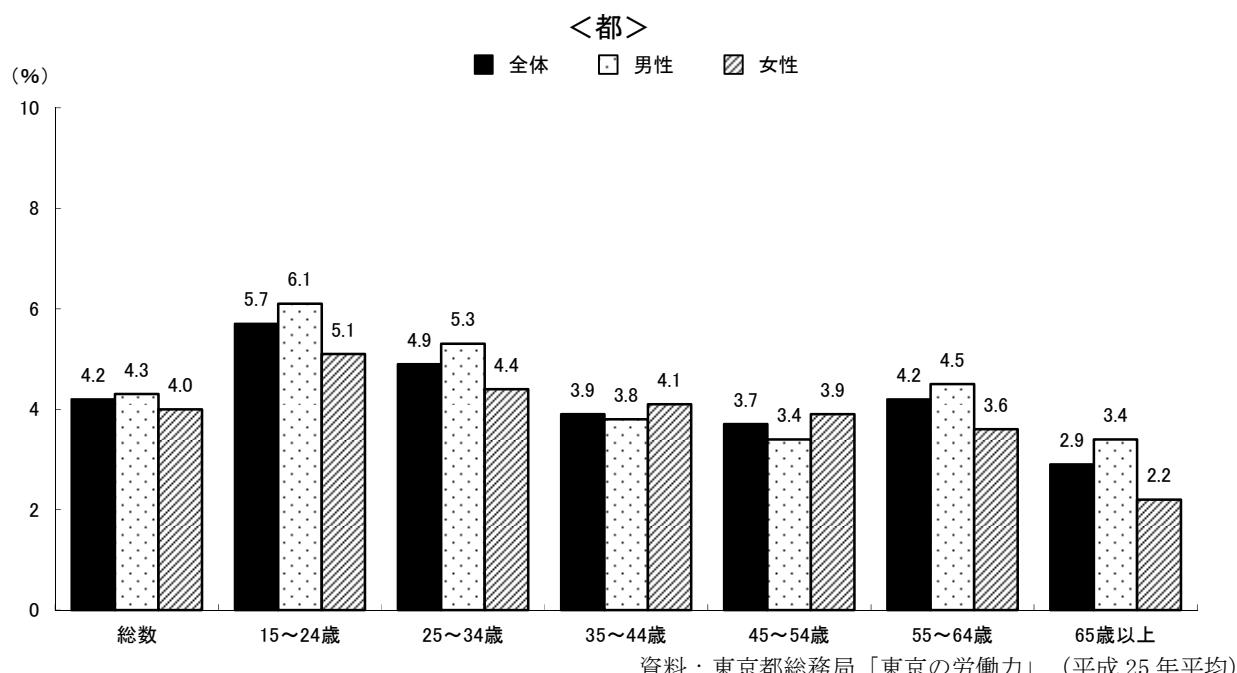
## (2) 若年層への支援

## III-2 若年層

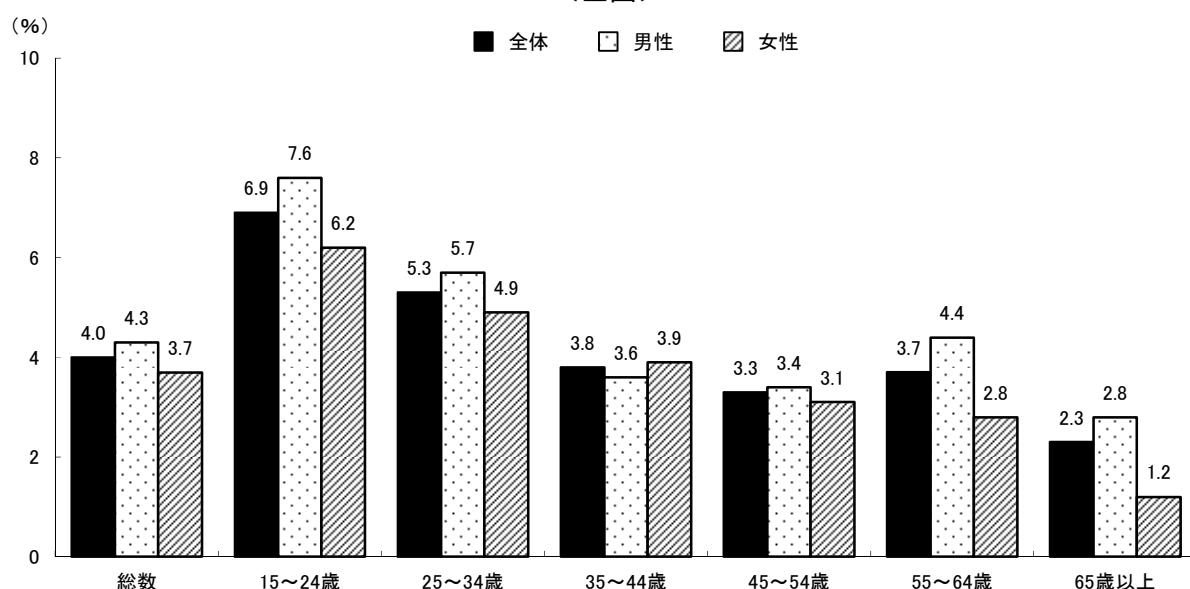
## 1. 完全失業率

完全失業率は都・全国ともに15~24歳で最も高い。男女別にみると、全国では55~64歳と65歳以上では男性が女性の割合を大きく上回っている。都では全国同様55~64歳と65歳以上で男性が女性の割合を上回っているが、全国と比較すると差は小さい。一方、女性が男性の割合を上回るのは、都では35~44歳と45~54歳で、全国では35~44歳となっている。

図表III-2-1 性・年齢階級別完全失業率（都・全国）



&lt;全国&gt;



注：数値は速報値

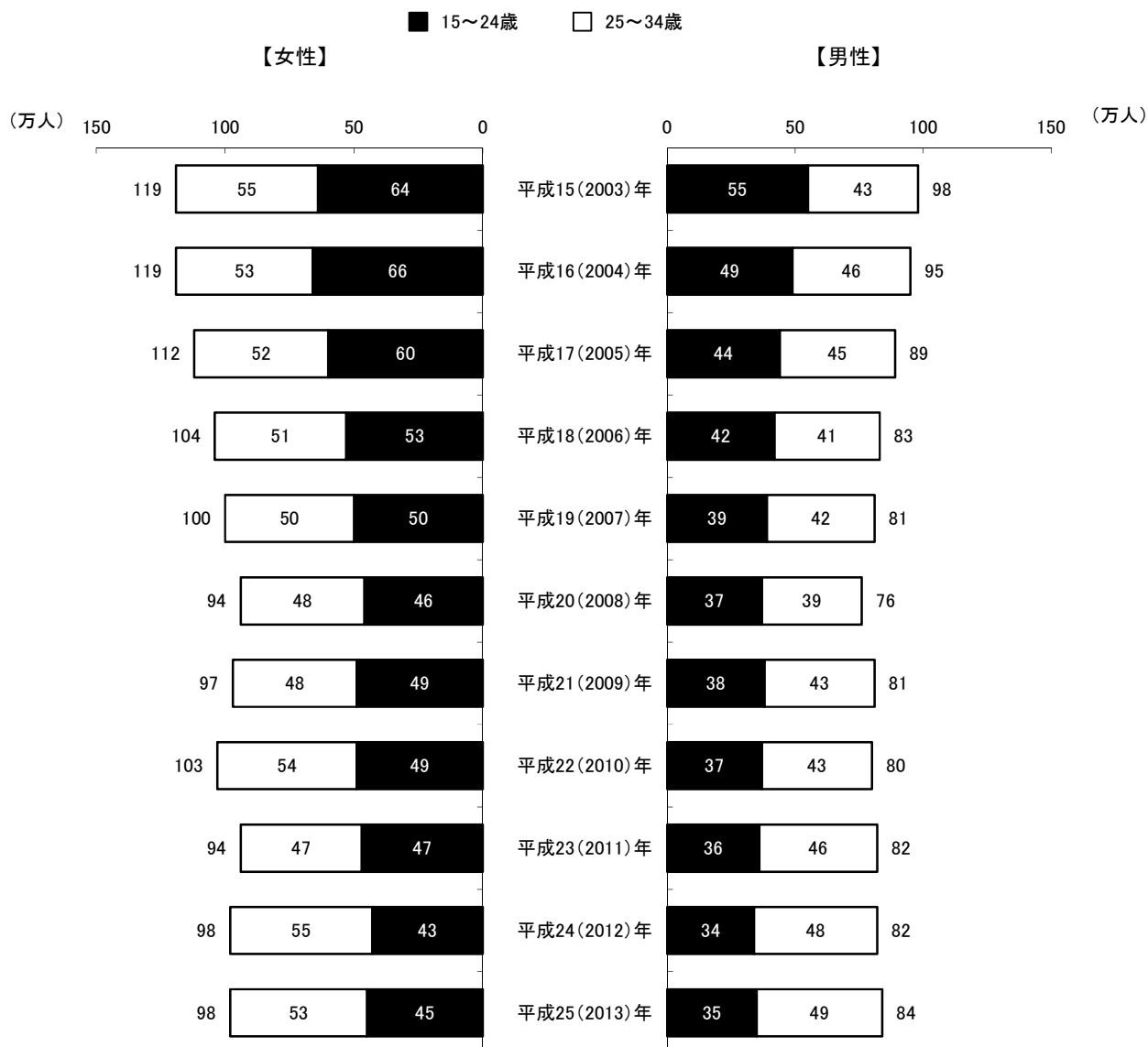
資料：総務省「労働力調査」（平成25年平均）

## IV 人権が尊重される社会の形成

### 2. 年齢階級別フリーター数の推移

フリーターの推移をみると、平成 15 (2003) 年から平成 16 (2004) 年をピークとして、平成 20 (2008) 年まで男女ともに減少傾向にあった。各年とも女性の人数が男性の人数を上回っており、平成 25 (2013) 年には、女性で 98 万人、男性で 84 万人になっている。

図表III－2－2 年齢階級別フリーター数の推移（全国）



注1：ここでいう「フリーター」の人数は、若年層（15～34歳の男性（卒業者）、女性（卒業で未婚の者））のパート・アルバイト及びその希望者で、下記①～③の合計である。

①「パート・アルバイト」での雇用者

②完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者

③非労働力人口のうち希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」で、家事も通学も就業内定もしていない「その他」の者

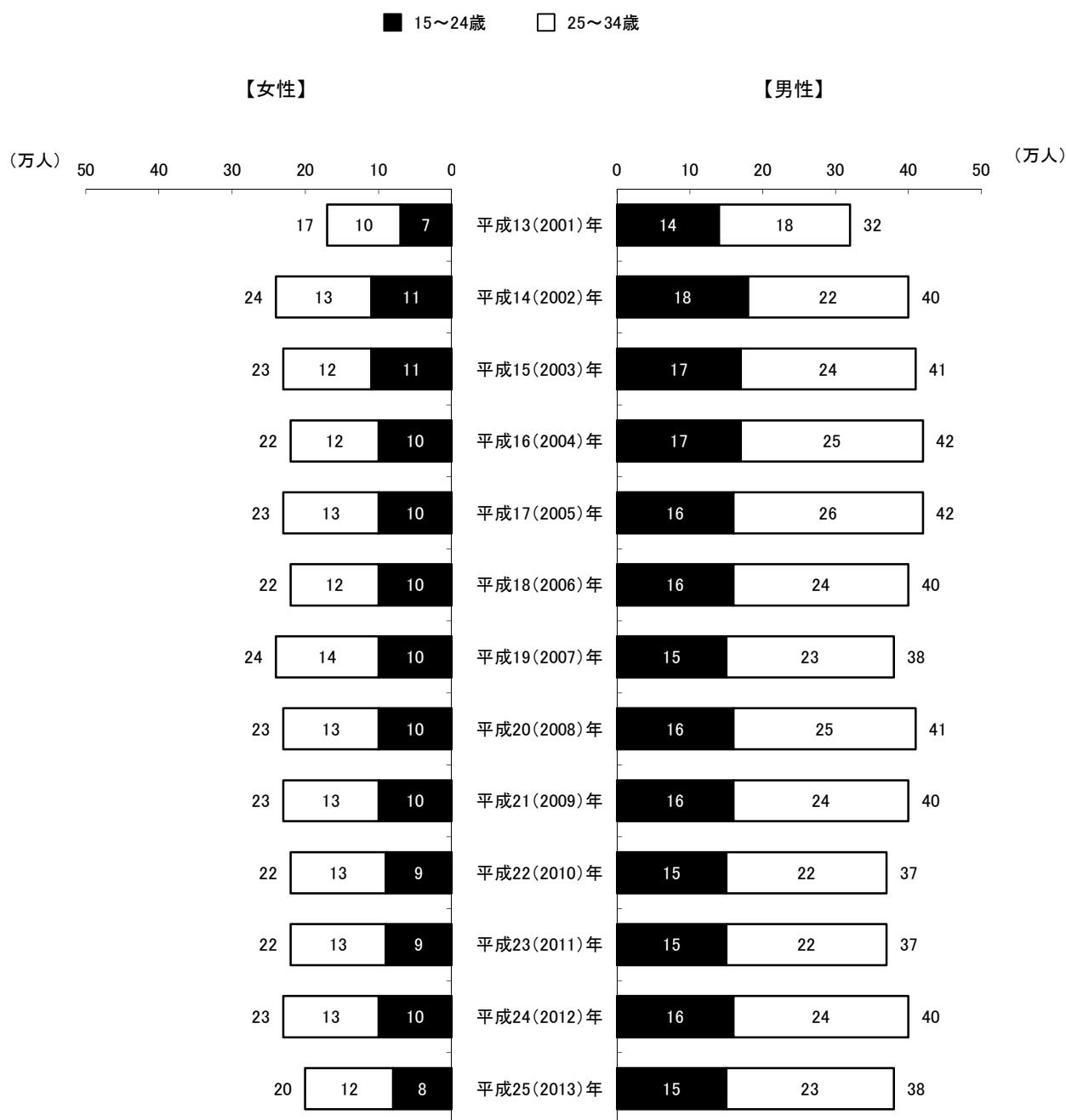
注2：平成23（2011）年は、岩手県、宮城県及び福島県を除く。

資料：総務省「労働力調査（詳細集計）」（平成25年平均）」

### 3. 年齢階級別若年無業者数の推移

若年無業者の推移をみると、女性は平成14（2002）年に20万人を超える、その後は20万人台前半で推移している。男性は平成14（2002）年以降、40万人台前後で推移している。

図表III-2-3 年齢階級別若年無業者数の推移（全国）



注1：ここでいう「若年無業者」は、15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者

注2：平成23（2011）年は、岩手県、宮城県及び福島県を除く。

資料：総務省「労働力調査（基本集計）」（平成25年平均）